

## 簡単、手軽に製作できる 野菜のセル苗用「底面かん水育苗装置」

水田における野菜の作付け拡大に伴い、野菜の栽培に不慣れな農業者が、育苗の水管理に失敗するケースが増えています。苗作りは長年の経験に基づく高度な技術を必要としますが、新潟県農業総合研究所園芸研究センターでは、かん水管理を自動化し、失敗の少ない装置を開発しましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 幅1m、長さ10mの育苗用プール（面積約10㎡、セルトレイ30枚の育苗が可能）をコンクリートブロック、スチール鋼管、押出法ポリスチレン断熱材（以下、硬質発泡スチロール板）等を用いて作成します（図）。
2. 市販のかん水タイマーを水道に接続して使用し、かん水チューブ（12.5cmピッチ、10m×2本）をプールの長辺両側に沿って下向きに水が出るよう裏返して配置します。
3. かん水は、基本的に毎朝1回でよく、かん水量は一般的な128穴、200穴トレイの場合はトレイの底面から5～10mm（6～8分間）の高さの範囲に収まる量、たまねぎ用448穴トレイの場合は高さ5mm程度（4分間程度）を目安とします。乾きが激しいようであれば再度、手動でかん水を行います。
4. 底面かん水後、トレイの底に滞水すると、トレイ底からの発根量が増えるので、設定水位に達したら速やかに余剰水が排出されるよう、プール脇部から吸水性マット等を利用して排水を促すか、電磁弁制御の排水口を設けてタイマー管理します。
5. 底面かん水は、頭上かん水と比較して育苗培土の吸水量、保水性が増す傾向があり、苗がやや徒長する場合がありますが、頭上かん水と遜色ない良質な苗が生産できます。
6. 本装置はブロッコリー、キャベツ、たまねぎ等に利用可能であり、設置費用は10㎡あたり約6万円程度です。

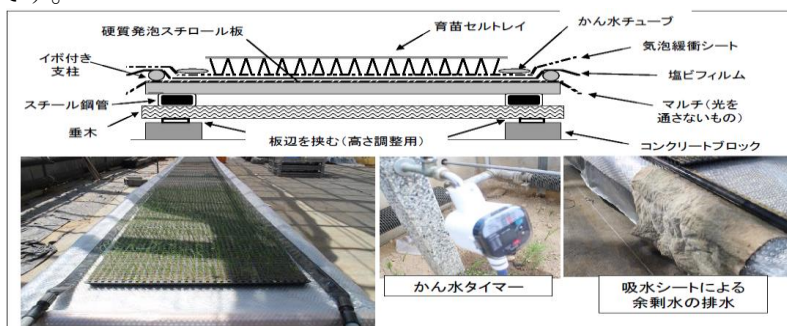


図 底面かん水育苗装置の構造模式図

### ☆ 活用面での留意点

1. は種から発芽揃いまでの期間は、頭上かん水を基本とし、通常の場合と同様に管理します。
2. 水道の水圧は時期により変化するので、時々確認して調整します。
3. 詳しいことは、新潟県農業総合研究所園芸研究センター（TEL：0254-27-5555）までお問い合わせ下さい。